

令和7年度 学校評価報告書

学校名	三田市立母子小学校
-----	-----------

1 学校教育目標

ふるさとを愛し よく考え 心豊かに たくましく生きる 児童の育成

2 今年度の学校重点目標

- ・小規模・複式学級の良さを生かした教育課程を編成し、児童の生きる力を育む。
- ・教職員としての資質や実践的指導力の向上に努め、持続可能な社会の担い手を育む教育を推進する。
- ・地域とつながり、地域に信頼される学校を目指して、地域の特性を生かした教育を実践する。
- ・教職員と児童・保護者、児童間の相互理解を深め、ともに生きる社会につながる教育を実践する。
- ※小規模特認校母子小学校の教育活動の様子を、オープンスクールや学校ホームページで積極的に発信する。
- ・教職員の「健康」「心理的安全性」「自己決定」を大切にする職場環境づくりを進める。

3 総合的な自己評価

- ・学校教育目標の実現に向けて、保護者や地域と連携しながら、具体的な提言や改善の方向性を全教職員で共有し、一体となって学校運営を進めることができた。
- ・少人数校としての特性を生かしつつ、児童一人ひとりの「生きる力」を育むことを常に念頭に置き、きめ細かな支援と指導を行う体制が整っている。こうした取組を通して、児童が安心して学び、成長できる環境づくりに努めてきた。

4 総合的な学校関係者評価

きめ細やかな支援と丁寧な指導のもと、児童が安心していきいきと学校生活を送っていることを高く評価する。小規模特認校制度を利用する児童が多い中でも、母子小学校に通う子どもたちは地域にとってかけがえのない存在であり、その成長を地域全体で温かく見守っている。今年度も学校と地域が連携した取り組みが円滑に進み、「母永『宝と夢』の里づくり協議会」との協働も一層深まった。今後も地域と学校が互いに支え合いながら、より魅力ある教育活動を創り上げていくことを期待している。

5 評価結果

自己評価			学校関係者評価	
分野・領域	評価項目 (取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育課程 学習指導	複式学級・少人数の良さを生かした教育課程を編成し、学び合いによる学力の伸長を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科を中心として、「おたずね」によるコミュニケーションから学習内容を深めていく授業形態が定着している。子どもたちが主体的に学習に関わる姿勢を育てることができている。 ・一人学年では、「共同学習者」の教師が入ってガイド学習を行い、コミュニケーション能力の向上に努めた。 ・学びを深めるおたずね等を教材研究時に予想し、教師の出場で意識させる支援が必要である。 ・朝の会や特別活動を通して、自分の意見や感想を述べることができているが、根拠となる部分を見つけて発表するには課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も算数科以外の教科でもガイド学習の要素を取り入れた授業を実践していく。 ・「共同学習者」としての授業の入り方にさらなる工夫と改善を図り、コミュニケーション能力を育てる授業づくりを行う。 ・「学習の山場」を設定し、子どもたちの深い学びとなるような仕掛けづくりを行う。 ・「めあて」や「振り返り」を各教科や特別活動で行い、全校生の前でも意見や感想を述べる機会を設ける。 ・タブレット端末や大型テレビを効果的に活用し、情報機器等を使って説明する力を育てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数の特性を生かした丁寧で効果的な指導が行われており、児童一人ひとりの学びが大切にされている。 ・本校の取り組みは、へき地・小規模校における教育の参考となるものであり、今後も積極的に実践を発信していくことを期待する。 ・タブレット端末をはじめとした ICT の活用が進んでおり、少人数ならではの柔軟な学習活動が工夫されている。今後も継続して取り組みを充実させてほしい。
	基礎的基本的な知識・技能を習得し、自己学習力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の漢字・計算アタックの取組により、児童自身が伸びを実感し、基礎学力向上に効果的であった。 ・児童に対する支援の方法について教師間での共通理解に努め、児童のつまずきがあれば迅速に対応できた。 ・図書の時間がない高学年に対しても、学校司書と連携したブックトークやビブリオバトル、読書表彰等により、読書への関心を高めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の漢字アタック、計算アタックは継続して取り組み、タブレット端末も効果的に活用する。 ・朝や放課後の時間を利用し、学習支援を行う。また、家庭との連携も密にし、家庭学習の定着を図っていく。 ・「母子家庭読書の日」の定着は図られてきたが、より一層家庭と連携しながら読書活動の啓発に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の学習習慣が継続して取り込まれており、基礎学力の確実な定着に向けた努力が感じられる。今後も継続して取り組みを深化させてほしい。 ・タブレット端末を活用した学習が進み、児童が主体的に学ぶ姿が見られる。ICT の効果的な活用を、さらに発展させていくことを期待する。
	学校行事や学びの場面での人々との交流を通して、表現力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や保護者の方に来ていただく本校ならではの特色ある取組(水無月交流会、運動会、芸術のつどい、ふるさと感謝祭等)を実施することができた。特に今年度は、運動会において児童と地域との合同種目を設けたり、ふるさと感謝祭においては、感謝の気持ちを伝えるだけではなく世代を超えた交流を目指したりなど、行事を通して地域とのつながりをより一層深めることができた。 ・神島小学校との交流(WEB)、小規模交流(中学校区の学校間)を積極的に行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内での異学年交流、地域との交流、中学校区内の交流、他市の小規模校交流など様々な交流を通して、相手意識を持たせるとともに更に効果的な表現力の育成に向けた取り組みを実施し、支援にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流を教育課程に明確に位置づけ、地域の方々との出会いや特産物づくりなど、多様な学習活動を展開している点を評価する。これらの活動は、児童が地域の魅力を実感しながら学ぶ貴重な機会となっており、地域としても大変ありがたい取り組みである。「母永『宝と夢』の里づくり協議会」との連携が一層深まり、地域と学校が協働して教育活動を進められている。今後もこの連携を継続・発展させ、児童の表現力育成につながる学びの場を充実させてほしい。
生徒指導 いじめ防止	あいさつ、掃除、宿題、学用品の用意等、基本的な生活習慣の形成を図ると共に集団生活の規律を守る態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつに関して、高い意識を持っている児童もいるが、まだ不十分に感じている児童もいる。 ・家庭生活に関して、お手伝いでは、子ども、保護者との間に認識のずれがある。 ・持ち物や提出物を学級通信や連絡帳で知らせてはいるが、宿題、忘れ物等の基礎的な生活習慣がまだ確立していない児童もいる。 ・睡眠時間は十分とれているが、休み明けに生活リズムの乱れからくる疲れが見受けられる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の登校時の立ち番、全校朝会、全校集会等であいさつの大切さについて継続指導していく。 ・保護者と連携し、睡眠時間の大切さについて考えることで、子どもたちは睡眠時間を意識して生活することができた。生活リズムについても引き続き懇談会や通信で発信することを通して定着を図る。 ・提出物や準備物を管理する力を身につけさせるため、根気よく指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつでも気持ちよく挨拶できるよう、さらに支援してほしい。 ・子どもからのサインを見逃さないよう今後も研修に努めてほしい。少人数ではあるが、「いじめ対応チーム」を機能させ、誰でも相談できる体制を整えてほしい。
	・学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめに向かわない態度・能力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も「いじめ対応チーム」を中心に、組織的に取り組み、全職員共通理解の上対応してきた。しかし、「相談しづらい」と感じている児童もいる。どの児童にも起こり得ると考えてアンテナを高くもち、常に声をかけていくことが必要である。 ・全教職員で情報を共有し学校全体として児童と向き合うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から子どものことを話し、毎月の職員会議職朝等でクラス・児童の様子を交流する。 ・定期的に児童理解の校内研修会を持ち、早期発見、早期対応に努める。(いじめ対応チーム) ・困ったことがあればすぐに相談できるよう、個別にも全体にも継続して声掛けをしていく。 	
道徳教育 人権教育 特別支援教育 国際理解教育	互いを思いやり、自他の命と人権を大切にすることを育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じて豊かな情操、道徳心、人権意識を高めていくための学習を実践することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人権感覚を身につけるために、温かい雰囲気のある学校、学級を目指す。 ・今年度は、兵庫県警サイバー対策室にお世話になり、情報モラル研修会を保護者、児童対象に実施した。情報社会で適正に活動するために必要な考え方や態度を身につけていくため、今後も継続していく。 ・講師を招いての人権研修を定期的に開催して保護者と共に人権について考える時間をもつことで、学校全体の意識を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権講演会、情報モラル教室をはじめ、人権感覚を育むために熱心な取り組みをしていただいている。今後も継続した取り組みを期待したい。

	違いを認め、ともに生きる社会につながる態度を育てる。	・福祉学習において耳の聞こえない方を招いての講話を実施し、相手の気持ち、生活に寄り添うことの大切さを学んだ。	・隔年ごとに継続して福祉体験学習を継続実施していく。(6年間で様々な分野で福祉体験学習を実施する)	・様々な人との出会い、交流を大切に、教育を進めていってほしい。
防災・安全教育	災害から身を守る態度や、安全に気をつけて生活する態度を育てる。	・1学期に不審者対応、2学期に土砂災害対応、3学期に地震対応の避難訓練を計画的に実施した。自ら判断できる児童を育むため避難経路を考えさせる等の取組により、防災に対する意識を高めることができた。 ・消防本部の協力により「命をつなぐ授業」を実施し全校生が命の大切さについて学んだ。 ・教師による登下校指導や保護者の下校見守りにより、登下校をはじめ帰宅後も安全に気をつけて生活することができている。	・本校は土砂災害危険地域に指定されている。避難訓練時に、学校から安全な場所へ避難する方法(山の峰会館へ避難)も組み合わせた訓練も行っていく。 ・全国的に自転車による事故が多発している。交通安全教室と合わせ、自転車の乗り方指導を継続して実施していく。	・今年度も母子芸術の集い時にパネル掲示という形で地域防災訓練を実施した。また、今年度は地域に砂防ダムも完成した。来年度以降も学校と地域が連携した取り組みを行う必要性は感じるので、工夫して実施していきたい。
保護者・地域住民との連携	・地域力を生かした教育内容を創造し、保護者や地域の人々の参画と協働を得て、魅力あるコミュニティスクールを推進する。	・学校行事、オープンスクールを通して、地域の人材や素材を活かした学習や新たな行事に取り組めた。 ・学校運営協議会を通して、これまで本校が培ってきた保護者、地域との連携を推進していくことができた。 ・ホームページや学年通信などの情報発信に努め、保護者や地域の方々にとって親しみある学校づくりを目指した。	・今後も、地域の方、保護者の方の支援を受けながら、地域の人材や素材を活かした学習に取り組んでいく。 ・今後も積極的な情報発信につとめ、保護者や地域の方々に来校しやすい学校づくりに努める。	保護者や地域の多くの方々に参加し、交流が深まる行事が継続して企画・実施されている。今後も地域とともに学びを創る場をさらに充実させてほしい。 学校だよりや学年だより、そして毎日更新されているホームページを通して、学校の様子が日常的に発信されていることに感謝している。こうした情報発信は、学校と地域をつなぐ大切な役割を果たしており、今後も継続して取り組んでほしい。